

10年後、どのような
由比でありたいか
〈6つの柱〉

古い町並みを
大切にしてい
きたい

インフラ格差が
解消されている

つながり

自慢の食材で
観光客を
おもてなし

誇り・おかえり
(山間地の有効活用)

高齢者に
住み良い地域

みんなの思い

シビックプライドを持ってほしい

- 1 子ども・若者が、由比に育ったことに自信と誇りを持ってほしい
- 2 既存イベントを拡大したい

気軽におでかけしたい

- 1 公共交通を見直し、交通利便性を向上させたい
- 2 ITを活用し生活利便性を向上させたい

つながりを増やしたい

- 1 イベントを通じて由比のことを地域内外の人に知ってもらいたい
- 2 若い世代が活躍できる環境をつくりたい

年間通して観光客で賑わいたい

- 1 様々な体験を通じて由比のことを好きになってほしい
- 2 お店が観光案内所のようなつながりをもって情報発信してほしい

昔の賑わいや活気を取り戻したい

- 1 浜石岳を拠点としたまちにしたい
- 2 由比を離れても戻ってきてほしい

第2の人生が輝けるまちにしたい

- 1 交通弱者・災害弱者を助けたい
- 2 アクティブシニアが地域貢献できる場がほしい

具体的なイメージ

1シビックプライドの醸成

- ・イベントに子どもや若者を巻き込んで、由比の歴史や文化を知ってもらう

2地域住民の一体化

- ・官民連携の協力体制をとり、各種団体や法人、行政と連携してイベントを作り上げる

1-1 バスの再編

- ・既存バス（ゆいばす、由比・蒲原病院線）を検討する
- ・蒲原地区と連携したKARTについて協議する

1-2 自転車のまちづくり

- ・PULCLE（パルクル）導入に向けたイメージづくりをする
- ・自転車の駅を活用し、まちの駅と連携する

1-3 情報格差の解消

- ・光通信網を整備する
- ・小中学生や高齢者へ情報講習をする

1 団体と若者のコラボレーション

- ・NPO法人ふれあい由比などの各種団体と若者が地域活動に参加する
- ・あいさつ運動（心を伝える3か条）を通じて内部のコミュニティを構築する

2 若者の活躍

- ・若者が児童生徒の活動（勉強・部活）を指導し教育格差をなくすなど、地域で子育てを支える環境を構築する
- ・空き家を活用して若者がシェアハウスを運営する

1 季節のカレンダー

- ・旬の食材を月毎に表したカレンダーを作成する
- ・イベントがない月は漁業や農業の体験企画等を考案し、一年中楽しめる由比にする

2 情報の発信

- ・各店舗や関係機関が情報共有し、外からのお客様に情報を発信する

1 山間地の有効活用

- ・浜石野外センターの活用方法を見直し、運営を継続していく
- ・老朽化した施設や山道を整備することで、訪れた登山者が気持ちよく利用できるようにする

2 資源の洗い出し

- ・11地区の強みや良さを活かしたMAPを作成する

1 活動支援

- ・既存バスの運用方法を見直し、利便性を向上させる
- ・共助できる防災組織を構築する

2 地域コミュニティの強化・交流

- ・趣味や特技を活かせる居場所や生き甲斐づくりを促進する
- ・講習会を開いて人材を養成する（次世代リーダー発掘）

由比地区の目指す10年後の姿

伝統と未来の融合したまち“由比”

～住み続けたい、行ってみたい、帰ってみたい、みんなが集まるホットするまち～

住み続けたい

- ・誇れるシンボル・強みがある
- ・住民が満足している
- ・気軽ににお出かけができる

定住人口の維持

行ってみたい

- ・誇れるシンボル・強みがある
- ・魅力的な体験ができる
- ・常に観光客で賑う

交流人口の増加

帰ってみたい

- ・誇れるシンボル・強みがある
- ・新しいカタチのつながりがある
- ・地域の良さが残っている
- ・まちが活性化している

関係人口の創出

清水区まちづくりミーティングを終えて（参加者の感想）

- ・人とのつながりができてよかった。
- ・1人の力ではなく、つながりを大切にすれば由比がよくなる。
- ・いろんな技術・知識を伝える役になりたい。
- ・今と昔をミックスすればいいものになる。
- ・多くの人が由比に愛と情熱を持っている。
- ・具体的な行動に関わっていききたい。
- ・将来を担うのは僕たち若い人間。

始まっている取組

- ・ゆいまろプロジェクト
- ・あいさつ運動
- ・浜石野外センター・浜石岳検討委員会
- ・ゆい結びあい

新たな動き

- ・蒲原地区と連携した公共交通（バス）に関する検討
- ・異業種が連携した新たなイベントの企画
- ・入山地区地域おこし